

# 京林大だより

No.18



絵:卒業生 熊走君

★祝★

平成26年度京都府立林業大学校  
卒業証書授与式

## 2期生卒業



梅の花がほころび春の兆しを感じられるようになった3月10日、林業大学校第2期生23名の卒業式が和知ふれあいセンターでとり行われました。

只木良也校長から一人ずつ卒業証書を受け取った卒業生は、地元のみなさま・来賓のみなさま・在校生・保護者のみなさまから祝福のお言葉をたくさんいただき、満面の笑みで2年間の充実した学生生活を感慨深く思い出していました。

卒業式終了後には、今年も和知駅前活性化委員会のみなさまから赤飯と心のこもった祝いの食事を振る舞っていただきました。

地元のみなさまには、今日まで学生たちが大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。

卒業後、多くの学生は京都府内の林業事業体に就職します。プロの林業技術者に仲間入りです。ここで学んだ林業の知識と技術を活かして各地で活躍してくれることを期待しています。

就職したら林大との関係がなくなるわけではありません。これから先も、林大を訪ねてきてそれぞれが仕事の話をしてくれることでしょう。そしてなつかしい思い出の詰まった和知のまちを歩くことでしょう。彼らにとって、和知はたいせつな第二のふるさとです。林大で学び、このまちで暮らした2年間の学生生活が生涯の宝として彼らの胸に輝き続けることでしょう。

林大第2期生の前途を祝福するすばらしい卒業式でした。

## 2年間、温かく見守ってくれてありがとう。



## ★かがやく★1期生★

最終回。みなさん、2年目も頑張ってください！

## 藤中 竜司

りょうじ

私は、柿迫林業で仕事をしています。作業内容は、主に架線集材を行っていますが、それだけでなく測量、伐採、搬出といった最初から最後まで全ての作業をしています。

その中で、とんかけ(くり)や土場で枝払いや玉切りをすることが多いです。

ほぼ1年仕事を勤めたとはいえ、まだまだわからないことばかりで、地に足が着いていない状態です。扱う機械の種類が多いため機械の操作、伐採や玉切り等のチェーンソーの技術を習得し、使いこなせるようにならなければなりません。特に線張りは覚えることが多く、作業自体は同じでも現場によって状況が異なるため、臨機応変に対応する必要があります。

次に、どのような行動をするべきか、どのようにすれば作業を円滑に進めることができるのかを考え、1つずつ工程を覚えていき少しでもはやく戦力として活躍したいと思っています。



(藤中くん)



(船越くん)



## 校長室より

## 『和知駅のドイツウヒ残った』

校長 只木良也

当林大だよりの第7号(平成25年5月)本欄に「ドイツ林業の木」と題して、和知駅に生育するドイツウヒのことを書きました。

明治の文明開化期、何でも西洋に倣う時代。林業が手本にしたのはドイツで、その林業先進国のシンボルとしてのドイツウヒを、林学科を持つ学校、林業機関などの構内に植えるのが流行したみたいですが、木材集散地だった和知にも、駅に植えられていて、今なお健在、という内容でした。

ところが、和知駅舎の改修計画あり。それは施設拡充建築のために、構内の他の樹木と共に、このドイツウヒも伐採対象という計画でした。駅の職員の方々、たまたまこの林大だよりを読んでくれました。

## ゆうや 爲國 佑哉

私は、現在、綾部市森林組合に就職し、職員として働いています。

仕事としては、測量や薪作り、民間の個人さん依頼の伐採など先輩方について様々な作業をしています。

就職間もない頃は、現場での作業や事務所での内業について行くのがやっとでしたが、約1年近く経ち、少し仕事に慣れて来たと思います。

林業大学校で、学んだことやチェーンソーや重機の基本的な操作、測量や森林調査など実際の現場の作業で役立っています。しかし、各現場にあった作業効率の良いやり方、山を見てどのように施業して行くかといったことなど、まだまだ仕事をしていく上で勉強することは沢山あります。

これからも、日々の経験を大切に先輩方の技術を見ながら自分のものにし、スキルアップしていけるよう努力していきたいと思っています。



(爲國くん)

## とよむ 船越 響 (山城町森林組合)

激しい金属とエンジン音の後、追う様に木が倒れる。余韻を感じる間もなく、倒した木を捌く。立木と立木の間に木を固定、払った枝もそこにかけていく、これでいいだろう。エンジンを止め、次の木を定める。

さて、次は・・・あの又か曲がりか・・・又にしよう。あれなら上手いけば、かからずに済みそうだ。歩き出し、又近づくと上手く倒せるか疑念が湧くが、時間はかけられない。チェーンソーを起爆させる。

・・・かかった。様々な思案めぐる中「ボーっとしてんなや！」親方から一喝。「すいません！」そんな働きたての日常。

和知の町の歴史を物語るこのドイツウヒ、伐ってはならない、と計画変更。他の木は伐られたが、ドイツウヒは残ったのでした。

残した木に、由緒書きの立て札を立てたいと、和知駅から林大へ相談があり、文面検討。先日2月初め、立て札完成しました。説明文の終わりに「京林大だよりに一部抜粋」の文字を入れてくださった立て札は、和知の駅を守る会、JR和知駅、京都府立林業大学校の三者連名。

そんなに大きな木ではありませんが、和知にゆかりの木として元気に、そして有名に育って欲しいものです。

